

健康経営に取り組む運送事業者

ドライバー不足が続く運送業界にあって、人手確保は最重要課題だが、その確保は難しいのが実情で、頭を悩ます事業者の姿が目立つ。人手確保が難しい現状から、社内の待遇改善に取り組む事業者もでてきている。健康経営もその一つで、働きやすい環境を整備するとともに、既存のドライバーに長く働いてもらうことを目的に取り組みが進む。今回、健康経営の一つの指標である健康経営優良法人認定の中でも、中小規模法人部門で上位500社が選ばれる「ブライト500」の認定を受けた運送事業者に、取り組みなどについて話を聞いた。

(荒沼 澤、越後桃子)

健康経営の徹底を図る見通し
 サイショウ、エクスプレス
 サイショウ、エクスプレス
 スプレス(齋藤敦士社長、東京都江東区)では、健康経営に取り組むため今年で6年目を迎えた。ブライト500の認定



齋藤社長
 会議を開催する。

は、昨年・今年で計2回になるという。また同社では、健康経営に取り組む異なるとして、毎月、情報交換などを目的とした会議を開催し、従業員の健康に対する学びの場を設ける。BCP

Pについて齋藤社長は、「健康経営アドバイザーと話し合い、感染症におけるBCPプランを策定した。これは感染症だけでなく、全てに当てはまると考えた」とし、「欠員が出た場合や災害時も物流は止まらない。一番大事にすべきなのは従業員で、その意味でも健康経営は欠かせない取り組み」と話す。

従業員の家族からも良い反響を得る
 エイエスエムトランスポート
 食品や生花の輸送をてがけるエイエスエムトランスポート(工藤亜紀子社長、山形県酒田市)では、2年連続でブライト500の認定を受けた。



工藤社長
 取り組みを進めていく中で、同社の入社理

ため、会社として当たり前のことをしていたところ、認定をいただいたと話した。同社では健康経営の取り組みが5年目を迎えるが、具体的な取り組みとして、健康診断の100%受診、2次検診、外部講師やインストラクターを招いた健康指導や勉強会などを行っている。社内にはトレーニングジムを設け、ドライバーの運動不足解消も図っている。

由に健康経営があるなど、従業員の家族から同取り組みに對し良い反響を得るなど、嬉しい変化もあったという。同社長は、「従業員の健康管理は会社の責務と考えている」とし、「これからも75人の従業員と共に元気に仕事をしたい」と語る。

新たな働き手を見つけるきっかけに
 菅原物流
 菅原物流(菅原司社長、山形県鶴岡市)では今年、ブライト500の認定を初めて受けた。



菅原真実総務管理部長

とし、そのほかにも精密機器の長距離運送など幅広く手掛けている。しかし、食品の輸送や長距離運行は勤務時間が不規則な上、ドライバーの平均年齢も高齢化してきたことから、10年ほど前から健康診断に検査項目をプラスするなど、健康経営に取り組んできた。そのための、健康診断の再受診率はおのずと高くなるのだが、菅原社長は「嫌がるドライバーは少なく、再受診を声かけ、再受診をしても良かった」と粘り強い取り組みを続

運送業界は人手不足が続く中、健康経営に取り組む事業者が増えている。...